

Newsletter from the Principal's Desk

自らの賜物を 最大限に活かし 拓かれた未来へ

No. 20

Thursday, October 2, 2025

函館市杉並町23-11

遺愛女子中学校高等学校

サラ・カルリノさん ようこそ遺愛へ！

「アジアの架け橋+」の留学生として、今年はイタリアから、サラ・カルリノさんが来函し、遺愛で学んでいます。K2Gクラスで多くの授業に出席し、一部他学年の授業にも参加しています。目下、日本語の習得に向けて猛勉強中です。滞在予定は8月24日～12月13日となっています。遺愛にきてひと月と少しになりました。メッセージを書いてくれました。

My First Month in Hakodate	函館での最初のひと月
It's hard to believe a whole month has already passed since coming to Hakodate. Time really does fly when every single day feels like a new adventure. The city amazed me right away. On one side there's the ocean, on the other side the mountains, and in between are streets that are calm, clean, and easy to walk through. Honestly, it feels like living inside a postcard. The night view from Hakodateyama was one of the most beautiful things I've ever seen, I tried to take a photo, but it didn't even come close to capturing how magical it was. The food has also been unforgettable. People told me it would be delicious, but I didn't expect even the simplest meals to taste this good. Convenience stores quickly became my guilty pleasure. I walk in planning to buy just water, and somehow I leave with fried chicken, rice balls, and dessert. It's almost impossible to resist, and I'm not even trying anymore. Eating here never feels boring, it's always fun.	函館に来て、もう1か月が経ったなんて本当に信じられません。毎日が新しい冒険みたく、時間があっという間に過ぎていきます。街に来た初日から驚きました。片側には海、もう片側には山、その間には静かで歩きやすい通りが広がっていて、本当に絵はがきの中にいるみたいな気分です。函館山からの夜景は、今まで見た中で一番美しかったです。写真を撮ろうとしましたが、その魔法のような景色は全然伝えられませんでした。 食べ物も本当に素敵です。美味しいと聞いていましたが、こんなにシンプルな食事まで美味しいとは思いませんでした。コンビニはすぐに私のお気に入りになりました。水だけ買うつもりで入っても、気づくとフライドチキンやおにぎり、デザートを持って出てきてしまいます（笑）。毎日の食事がちょっとした楽しみになっています。



K
2
G
ク
ラ
ス
の
み
な
さ
ん
と

Life at IAI High School has been one of the best parts of this experience. On the first day, I was nervous, but the kindness of teachers and students made me feel comfortable right away. Even without knowing Japanese, I never feel left out. Communication happens through English, gestures, smiles, and plenty of laughter. It proves that you don't need perfect words to build friendships. The school is full of energy, and I admire how motivated everyone is. That atmosphere inspires me to work harder too.

What surprised me most about Japan is the balance of life. Before coming, I imagined everything would be fast-paced and maybe stressful. But in reality, there's a rhythm here that feels both busy and calm at the same time. People work hard, but there's also so much politeness and respect in everyday life that it creates harmony. And then there are the small surprises, like vending machines on every corner, that make me smile every day.

Looking ahead, I know this experience will stay with me long after I leave. In the future, I want to come back and live here, while also traveling and learning about other countries so I can see different ways of life. For now, Hakodate feels like the perfect place to begin that journey, with beautiful views, good food, and kind people who already make it feel like home.

遺愛での生活も素晴らしいです。初日は緊張しましたが、先生や生徒たちがとても親切で、すぐに安心できました。日本語がわからなくても、孤立することはありません。英語やジェスチャー、笑顔、そしてたくさんの笑いでコミュニケーションができます。完璧な言葉がなくても友達を作れるんだなど実感しました。学校は活気にあふれていて、みんなが一生懸命な姿を見ると、自分ももっと頑張ろうという気持ちになります。

日本で一番驚いたのは、生活のバランスです。来る前は、すべてが忙しくて大変なのかと思っていました。でも実際には、忙しさと落ち着きがうまく混ざったリズムがあります。みんな一生懸命働きますが、礼儀や思いやりがあって、毎日が心地よく感じられます。そして、街中にある自動販売機のような小さな驚きも、毎日をちょっと楽しくしてくれます。

将来は、また函館に戻って住んでみたいです。そして、他の国々も旅行して、さまざまな文化や生活を学びたいです。今は、函館がその旅を始めるのにぴったりの場所だと感じています。美しい景色、美味しい食べ物、そして親切な人たちが、すでにここを家のように感じさせてくれます。

サラさんの母語はイタリア語ですが、英語力が非常に高く、サラさんの書く英文は、英語科の小阪先生曰く、「個性的で魅力的な素晴らしい文章」と大絶賛です。英語の得意なみなさんはぜひ読み味わってみてください。



この一か月の函館生活でのお気に入りの写真を提供してくれました。上と右はホストファミリーのK3J服部釉月さん、K2I井上さやさんと撮ったものです。



部活動の活躍

令和7年度 高体連函館支部秋季新体操選手権大会

個人一部 **優勝** K2I 山田恋白 2位 K2G 白川ゆなほ 3位 K2H 中山雪花
個人二部 **優勝** K1A 小林悠華

高校ソフトテニス部第25回南北海道高校研修大会

女子1年生の部 **優勝** K1A建部麻緒・K1H高谷夏帆ペア
第3位 K1B中森花風・K1B神山花ペア
女子1・2年生の部
優勝 K2A加藤妃奈乃・K2A伊藤杷子ペア

入賞できなかったペア含め、みんなよく頑張りました。まだまだ課題も多いので次の大会に向けて頑張りたいと思います。



東京大学講演会

9月24日水曜日の⑥時間目に本館講堂において「東京大学講演会」が行われ、高校1，2年生特進コースの生徒たちが参加しました。お二人の東大の女子学生が来校して、東大の学生生活のお話、今学んでいる学問分野のお話、高校時代に東大を志すことになった経緯やその後の勉強のお話、今関心を持っている趣味のお話、女子高校生へのアドバイス等、広範囲のテーマについて、工夫を凝らしたお話をしてくださいました。聴いているみなさんが熱心なので、話し手のお2人も熱が入り、時間があっという間に過ぎていき、気がつけば20分もオーバーしていました。非常に充実した時間となりました。参加した皆さんのやる気もアップしたようです。

東京大学は現在、女子学生を増やすために、いろいろな取り組みをしています。全国各地の高校から希望をつのり、選ばれた学校には学生が赴いて説明会を実施するという企画があります。当然倍率は高いのでダメもとで申し込んでみたのですが、今回来校してくれた遺愛の卒業生・犬飼こよりさんのご尽力があり、実現したものです。犬飼さんには本当に感謝です。

今回来校してくれた犬飼さんと瀧川さんのお話の中から、特に高校時代に関するお話を抜粋しました。遺愛生のみなさんからみて参考になる内容だと思いますのでぜひ読んでみて、今後の生活のヒントにしていいただければと思います。



息もぴったりで素晴らしいお話をしてくれたお2人に感謝！

犬飼こよりさん（文科三類）のお話抜粋	瀧川千里愛さん（理科一類）のお話抜粋
高校1～2年生の頃は書道部に所属し、週2～3回の部活動と勉強の生活だった。K2時担任の清水先生の言葉とその後の熱いサポートがきっかけで東大を志望するようになった。家族は最初東大志望を信じてくれなかった。家族にとっても、自分にとっても、「東大」はとても遠い、雲の上のような存在で、現実感がなかった。「全国から集まる優秀な学生たちがいる環境で勉強する・大学生活を送るのは楽しそう!」と考えた。塾に行かず、遺愛の授業と課題、小テストや定期テスト中心の生活だった。勉強時間が足りないのでスマホを遠ざけた。電源offが基本状態で、充電は3週間に1回くらいだった。身のまわりに東大入学者や志望者が少ないので、入試や勉強法についての情報も少なかった。そこで、自分のできることに集中すること、遺愛の先生に頼りまくること、にした。特に高校3年生のときは勉強中心の生活だった。平日は毎日放課後は図書室で勉強しトータルで5時間くらい、休日は家が学校から遠かったので、自宅で10時間くらい勉強した。	東大生へのあこがれから志望を固める。学力が足りないと感じたら、後から志望校を変更すればいいと思った。絶対ライバルに負けたくないという対抗心があった。高校1、2年生の頃は教科バランスをあまり考えず、やりたい勉強をした。自宅ではスマホをいじってしまうので、塾の自習室、スタバ等人的目のある所で9:00～22:00まで勉強。計画は細かく立てても実行できないので、おおまかにルーティン化した。スマホをどうしてもやめられなかったので、22:00までの勉強を終えた後、思い切り動画を観たり等につかった。昼食で食べる「うどん屋さん」（香川県なのでおいしいうどん屋さんがたくさん）を楽しみにする等の「楽しさ」も日々大切にした。学校や塾の先生から「この高校（高松市の公立高校）から現役で東大の理系に入った女子はいない」「女子ってやっぱり理系科目苦手だよね」等の女子に対する偏見発言を聞くたびに反発心に火がついて勉強した。学校には何人かの「天才」がいたが、勝手にその人たちをライバルと設定して、勉強の質と量は誰にも負けないという自負心を作った。
「進振り」（大学2年生の夏休みの段階で進学する学部学科を決定する制度）のお話。 たくさんのグルメスポットについて。 東大の留学制度について。 ひとり暮らし向け支援制度（特に女子学生限定のものについて）。 留学のお話。（犬飼さん⇒スウェーデンに半年、瀧川さん⇒北京に一週間） 東大といういろいろな先入観で見られることが多い⇒実際にはいろいろな人がいます。 ⇒リアルな東大についてのお話。 東大における「人とのつながり」について⇒クラス制度、上下・卒業生とのつながり。 駒場キャンパスと本郷キャンパスについてのお話。⇒都心とは思えない広さ。緑豊かな美しい環境。	



絶対に負けないんだから！！！！

- 人一倍努力する
 - 勉強の質と量は誰にも負けない自信があった
- 天才たちをライバルに
 - 常に自分より前にいる人を目標にした